コラム

やってみよう！
備える仙台

仙台青年会議所の防災・減災の取り組み

仙台青年会議所は、東北福祉大学Team Bousaisiと協力し「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」事業を行いました。
このプロジェクトは、地域やひとの防災意識と災害対応能力の向上による地域防災コミュニティの創造を目的とした事業です。「防災意識の再確認」と「有事の際に掲げ迅速な安否確認」ができる地域防災ツール「しあわせな黄色いハンカチ」を広めています。
2018年は6～10月にかけて市内小学校8校の小学生を対象に、防災の自助・共助の重要性を理解する防災ワークショップや、大学生による震災の経験や知見を次世代に語り継ぐプログラムを行い、延べ1,052名の小学生に参加いただきました。プロジェクトを通して、多くの児童に震災の教訓や知見を伝え、防災・減災の重要性についても知っていただくことができました。
仙台青年会議所は、2019年も仙台市の防災文化の発展に貢献できる事業を続けていきます。

▲長命ヶ丘小学校でのプログラム

▲宮城野小学校でのプログラム開催

▲防災ワークショップに取り組む児童の様子

公益社団法人 仙台青年会議所
TEL 022-222-9788　FAX 022-222-9786　HP http://sendai-jc.or.jp/2019/

お知らせ

平成30年度 第14回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム
●～学ぼう！豪雨災害 考えよう！地域防災～を開催します

近年の異常気象に伴う豪雨災害の増加を踏まえ、過去の豪雨災害等について学び、地域の力で自分たちのまちを守るために、これからの地域防災について一緒に考えてみませんか？

▲基調講演

日時 2019年3月18日(月)13:00～17:00
会場 太白区文化センター（仙台市太白区長町5-3-2）　**主催** 仙台市
内容
・防災基調講演「平成30年西日本豪雨の特徴と東北地方洪水被害との共通点・課題～今後我々は何をすべきなのか？～」
富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授 呉 修一氏
・ワンポイント防災セミナー「世代間連携のための具体的ストラテジー」
仙台八木山防災連絡会幹事 谷口 和也氏
「女性リーダー育成プログラム『決める・動く』の取り組み」
(公財)せんだい男女共同参画財団エル・パーク仙台管理事業係長 成田 洋美氏
「地域の防災力を高めるために ～マンション防災力向上の取組み～」
グリーンキャピタル長町Ⅱ管理組合理事長 武山 浩氏
・救護の達人コンテスト　チームを組んで、救命措置の実践や応急処置リレー、救急や防災に関するクイズに挑戦し、正確さやスピード、正解数を競います。（参加費無料、要申込）

▲救護の達人コンテスト

仙台市減災推進課　TEL 022-214-3109　FAX 022-214-8096

3.11現場の事実×心の真実
●「それでも、下水は止められない。」～東日本大震災・南蒲生浄化センターの知られざる闘い～が開催中です

津波で壊滅的な被害を受けた南蒲生浄化センターではその日から、気の遠くなるような闘いが始まっていました。施設で40年働き続ける職員など複数のインタビューをもとに、職員の言葉、写真、映像、イラストでそのドラマを伝えます。
＊南蒲生浄化センター製作の英訳付DVDを展示室でご覧いただけます。
＊南蒲生浄化センターへのツアーなど、関連企画も実施します。詳細はホームページをご覧ください。

▲企画展の様子

日時 2019年1月22日(火)～4月14日(日) 10:00～17:00
※展示期間中の休館日／3月11日を除く月曜日、3月14日(木)、3月22日(金)
会場 せんだい3.11メモリアル交流館 2階展示室（地下鉄東西線荒井駅舎内、入館無料）
主催 せんだい3.11メモリアル交流館　**共催** 仙台市南蒲生浄化センター

せんだい3.11メモリアル交流館　TEL 022-390-9022　HP http://sendai311-memorial.jp/

EXPERIENCE FUTURE SENDAI
経験をつなぎ、そして未来へ
防災環境都市・仙台

発行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL：022-214-8098
FAX：022-214-8497
E-mail：mac001605@city.sendai.jp
編集 株式会社仙台紙工印刷
発行日 2019年2月

▶「えーる」は防災環境都市・仙台ホームページにも掲載しています。
https://sendai-resilience.jp
仙台市の取り組みから、市民の方々の取り組みまで、より詳しく紹介しています。
▶次号は7月発行予定です。

タブレットでも！スマホでも！

この印刷物は「再生紙」を使用しています。

仙台防災未来フォーラム2019 特集号

※仙台防災未来フォーラム2019の概要は中面に記載しております。

防災環境都市・仙台ニューズレター YELL

えーる

「伝える」「繋げる」「備える」を応援（エール）する
防災環境都市・仙台の市民情報誌です。

仙台市では、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、防災力のあるまちをつくり、ひとをはぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。「えーる」では、防災・減災や環境に関わるさまざまな分野で活躍する“ひと”に注目し、その取り組みを紹介していきます。

本号は「仙台防災未来フォーラム 2019」のテーマ「マルチステークホルダー」にちなんで、地域での防災活動で活躍する様々な皆様を紹介します。

2018 No.10

テーマ
子どもたちに伝える震災の教訓

表紙インタビュー
伝える仙台

NPO法人防災士会みやぎ*防災士
仙台市地域防災リーダー（SBL）
佐藤 美嶺（みね）さん

普段の暮らしの中でできる、ママのための防災。

防災士*としての活動のきっかけは、子どもが生まれて間もない時に東日本大震災が発生したことです。当時は新生児にとって必要な品物も不足している状態で不安でいっぱいでした。そして、子どもにも自分の不安が伝わらないか心配だったのです。
母親である自分がどっしり構えなければと、夫に相談したところ、「家庭によって災害に必要な備えは全く違うはず、防災士の勉強から始めてみたら」と勧められ、まずは我が家流の防災・減災を考えてみようと、防災士の資格を取得しました。

その後、同じような不安を持つママ世代がたくさんいらっしゃると聞き、防災士の知識や家庭での備えを生かして近所の児童館で講演をしてから、次々と講演依頼をいただくようになりました。講演では、日々の子育てや主婦の目線の防災を意識しながら自分が学んだ事を伝えています。アルファ米や乾パンで作る離乳食や防災食など、自分の家で簡単に実践できることを伝えるワークショップも取り入れています。「災害に対する不安はあるけれど、具体的に何をしたら良いかわからない」という声をよく聞くのですが、いざという時に「私だったら大丈夫、乗り越えられる」と思えるような知恵や工夫を、日常生活の中に増やしてもらえたら嬉しいですね。
また、もっと柔軟にママ同士のネットワークやつながりを作っていってほしいと感じています。近所の方と普段から助け合える「共助」の関係を作っておくことも大切だと思います。

現在、理事を務める「西公園プレーパークの会」では、子どもたちに遊びを通した体験の中で、水や火の怖さなど、災害が起きた時のことを想像し、自分で考えられるような機会も作っています。ママさんや子どもたちにとっても必要な日々の備えについて、多くの方々に伝えていきたいですね。

▲児童館での講演の様子

▲西公園プレーパークの会の活動の様子

プロフィール
山形県生まれ。2012年に防災士の資格を取得。「ママの立場で考える防災・減災」を主なテーマに、これまで120回を超える講演・ワークショップ等を行う。2014年日本災害食学会第2回研究会で、乳幼児家庭を対象にした災害食ワークショップに関する研究で最優秀賞を受賞。西公園プレーパークの会理事。
■ママの立場で考える防災・減災　https://sites.google.com/site/bousaisatomine/

*防災士
“自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高めるための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した方々。

*NPO法人防災士会みやぎ
「自助」「共助」の原則のもと、会員のネットワークを構築し、防災士としての活動と技術研鑽を支援することに賛同する、宮城県内に在住する防災士有志によって構成する会。

テーマ・インタビュー
繋げる仙台

子どもたちの未来を育む、「仙台版防災教育」
～防災への思いをつなぐ学び～

仙台市は震災を通して防災教育の重要性を改めて認識し、震災以降、児童生徒の自助・共助の力の育成に取り組んでいます。仙台市立七郷小学校は、2013～2016年度に文部科学省による研究開発学校の指定を受けて独自に「防災安全科」を創設。現在も「仙台版防災教育」を実践し、全児童が震災の教訓や防災について学んでいます。

仙台市立七郷小学校 校長
白石 光彦 さん（2017年4月より現職）

自助・共助の力を育てる防災学習

── 震災後の学校の取り組みを教えてください。

仙台市東部に位置する本校は、仙台市内で最も津波被害の大きかった荒浜地区に隣接し、震災後1ヶ月ほど地域住民の大規模な避難所となった学校です。震災以降、本校では独自に総合学習の時間などを使い、「震災復興学習」に取り組んできました。しかし、震災を経験していない児童にも震災を風化させずに継承していくためには、汎用性・継続性のある防災学習プログラムを作ることが大切です。2013年度からの4年間の文部科学省による研究開発学校への指定を契機として、全学年に「防災安全科」を創設しました。その後は、「震災・復興に関わる人の思いを児童に伝え、我が事として根づかせること」、「災害時に自分の身を守りつつ、家族や周りの人のために、自分でできることからやってみること」の習得に力を入れながら、学びを深めています。

子どもたちが描く、未来の七郷のまちづくり

── 現在はどんな防災学習をしていますか。

研究開発学校としての指定を終えた後も、児童の防災学習は継続しています。人の思いを感じ取れる心を持ち、七郷の良さに触れながら、未来の自分やまちの姿を考え、夢や希望を持ってたくましく生きていける児童の育成を目指し、学習を進めています。

震災遺構仙台市立荒浜小学校の訪問では、津波襲来の様子の動画や写真などを見て、災害の恐ろしさを肌で感じました。また、地域に出向いての「魅力再発見の学習」では、稲が実るまでに復興した水田の視察や、震災前の荒浜の人々の暮らしを知ることを通し、過去と現在のまちの変化に触れました。児童は、この学習から災害の教訓や備え、そして人々の思いを大切に受け止めるようになります。学習のまとめとして児童が制作した「復興絵馬*」には、地域への思いを児童それぞれの言葉で表現することができました。

▲「未来の七郷まちづくり」の活動の様子

▲ダンボール製の「復興絵馬」づくりの様子

6年生が取り組む「未来の七郷まちづくり*」をテーマにした学習は、15年後の七郷をどんなまちにしたいか想像し、地域に必要だと感じる建物や施設を模型で表現する活動です。まちづくりの視点を学ぶ講義や地域での調査の後、地域ごとに選出された「子ども市長」を中心に未来のまちの構想を練ります。完成したまちの中には「歌とお笑い広場」や「複合型防災避難所」など、これまで携わってきた地域やそこに住む人々への思いと、防災学習に基づく児童のアイディア、そして夢と希望がいっぱいに詰まっていました。

子どもたちに芽生えた防災の意識

── 学習に取り組んだ児童たちに何か変化はありましたか。

防災学習を進めていく中で、児童が自分の行動に自信を持つようになり、自ら身を守る方法や物事を判断する力が身についてきたように感じられました。中には、地震が起きた時に家に必要なものを、自分で考え家族にすすめたという児童もいました。児童が“災害は他人事ではない”という気づきを得ていく様子を見ることができ、大変嬉しく思っています。

また、「人を助ける大人になりたい」と感想を述べる児童がたくさんいました。今の子どもたちが中学・高校生になった時や、さらに大人になり全国に飛び出していく時も、本校で学んだことを思い出し、それぞれの土地で地域の防災の担い手となってくれることを期待しています。そして、自分らの震災の経験を、次の世代へ伝えていってほしいです。

本校の防災学習もさらに深化させ、他の沢山の学校にも活用できるものにしていきたいですね。これからも震災を経験した小学校として、児童の防災の芽を育てるサポートをしていきたいと考えています。

＊復興絵馬
東北工業大学と連携し制作。児童が復興への願いを段ボールで制作した「絵馬」の中につづった作品。

＊未来の七郷まちづくり
山形大学と連携し、竹中工務店の協力を得て制作。縦2.4m、横2.4mの発泡スチロール板に、将来の七郷地区と荒浜地区を模型で表現した。

七郷小学校の児童の防災学習での制作物が公開されます!
4年生制作「おらほの田んぼ」、5年生制作「復興絵馬」、6年生制作「未来の七郷まちづくり」の展示
●日時　2019年3月26日（火）～4月21日（日）
●会場　せんだい3.11メモリアル交流館（期間中毎週月曜日休館）

仙台防災未来フォーラム2019

EXPERIENCE FUTURE SENDAI

日時 2019年 **3月10日(日)** 9:30～17:30
会場 **仙台国際センター展示棟** 地下鉄東西線「国際センター駅」下車
※ご来場の際には、地下鉄東西線をご利用ください。

「仙台防災未来フォーラム」は、東日本大震災の経験や教訓を未来の防災に繋ぐため、セッションやブース展示、体験型イベントなどを通じて市民のみなさまが防災を学び、日頃の活動を発信できるイベントです。

入場無料 FREE ADMISSION

テーマ 主役はマルチステークホルダー わたしたちが知る・行動する防災の未来へ

「マルチステークホルダー」とは、国籍、年齢、性別等によらない、行政・企業・個人・市民団体・研究機関・報道機関などさまざまな立場の人や団体を指します。マルチステークホルダーが防災・減災に関心を持ちお互いに協力することが、災害に強い社会を作っていくために重要です。

主な内容について紹介します。

セッション（8団体）
地域団体、研究・教育機関などによる防災に関する取り組みを共有
仙台市民が仙台防災枠組から考える防災・減災
～「仙台防災枠組講座シリーズ」成果発表会～

15:30～16:30
会場/会議室4-A
定員/48名

プレゼンテーション（15団体）
本市地域団体や学生、企業によるプレゼンテーション
豪雨災害から命を守るための市民意識啓発の取り組み

14:00～14:40
会場/会議室3-B
定員/48名

ブース展示（49団体）
防災に関する情報を発信
災害時にも役立つ常備菜レシピ集
日頃から備えて・役立つ常備菜をご紹介します！

大学生考案！「防災・復興ダンボール製作品」展示
東北工業大学の学生たちのアイディアが詰まったダンボール作品を特別公開！

その他、楽しいプログラムも多数！

ステージイベント
親子で楽しく防災を学ぼう！
阿部清人先生の防災エンスショー
①10:30～11:00
②13:00～13:30
楽しいトークと、実演による防災実験教室！

ダンボールパーク
ダンボールを使った工作ワークショップや遊具体験！

楽しく防災を学べる様々なワークショップ
みんなで作ろう！段ボールジオラマワークショップ

防災の思いをのせた作品展示
アートコンクール
入賞作品から「仙台防災未来フォーラム賞」が決まる！

連携シンポジウム（同時開催）
東北大学災害科学国際研究所によるシンポジウム
「震災8周年シンポジウム
～東日本大震災の教訓の共有と継承を考える～」
10:00～14:30 会場/展示室3-A

※フォーラムに関する詳細はホームページをご覧いただくか事務局までお問い合わせください。
※主催者都合等により各プログラムの変更や、全部または一部を中止する場合があります。

仙台防災未来フォーラム2019 運営事務局
TEL 022-217-7851（土日祝日を除く10～17時）　FAX 022-723-3210
ホームページ https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2019/
Facebook https://www.facebook.com/sendai.bosaimiraiforum

一般社団法人 防災ジオラマ推進ネットワークの防災・減災の取り組み
フォーラム セッション

段ボールジオラマを用いた防災学習

私たち一般社団法人防災ジオラマ推進ネットワークでは、段ボールで作るジオラマを使った楽しく実践的な防災授業を通じて、まちを知ることの面白さ・大切さを伝えています。

2018年度は、仙台市立袋原小学校、吉成中学校の2校でジオラマを活用した授業が行われました。

自分の手でジオラマを組み立てることで、住んでいるまちへの興味関心は格段に高まります。袋原小学校では、自分たちのジオラマにいろんな情報を載せたくなった子供たち自身から、「まちを探検してみたい」という声が上がったそうです。何気なく見ていたまちの景色がいろいろと気になってくる、吉成中学校の授業でも、そうした感想を耳にしました。

「防災」は特別なことであってはいけません。日常の小さな意識の変化、その気づきこそが大切だと思います。ジオラマを通じて参加者と防災との距離がぐっと縮まるよう、活動を続けていきたいと思います。

▲吉成中学校での段ボールジオラマを使った防災学習

一般社団法人 防災ジオラマ推進ネットワーク
TEL 090-1500-2120
HP https://www.bosai-diorama.or.jp/

仙台市動物管理センター（アニパル仙台）・NPO法人エーキューブの防災・減災の取り組み
フォーラム ブース展示

災害時のペット避難の普及啓発

仙台市動物管理センター（アニパル仙台）は、NPO法人エーキューブと協働し、災害時のペットとの同行避難に関する普及・啓発に取り組んでいます。過去に、避難所でのペットの受け入れが困難とされたため、飼い主がペットとの同行避難をためらい、避難の遅れから二次被害に遭うといったことが起こりました。同行避難の推進は、動物愛護の観点だけでなく、そのような被害を防ぐ住民の安全を確保するためにも重要と考えます。

我々は、継続して地域で開催される防災訓練などにも参加しており、訓練においては、日頃から飼い主が準備すべきことや動物用避難用品の紹介のほか、ペットとの同行避難を想定したモデル犬によるデモンストレーションなど、より実践的な体験も行っています。

今後も引き続き、災害時のペットとの同行避難が受け入れられるよう、日頃からのしつけや健康管理、所有者明示などの大切さを飼い主に伝え、これらの取り組みを普及・啓発していきたいと思います。

▲ペット同行避難住み分けモデル

仙台市動物管理センター（アニパル仙台）
TEL 022-258-1626 FAX 022-258-1815
NPO法人 エーキューブ
TEL 080-5224-6758
HP http://a-cube-sendai.com/